

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(インドネシア)

広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター 運営委員会 委員 勝又 美穂子
接合科学研究所 特任准教授(常勤)

2021 年度のインドネシアオンライン CIS (カップリング・インターンシップ)が、11 月 22 日 -29 日の期間にインドネシアと日本を結んで実施されました。昨年度に引き続き新型コロナの影響のため、海外渡航不可となったことから、本年度もオンラインでの実施となりました。大阪大学の外国語学部インドネシア専攻 2 名、経済学部 1 名、工学研究科 1 名、インドネシア大の人文学部 2 名と工学部 2 名の計 8 名の学生が参加しました。本学学生は、5 月から日本で計 8 回の事前研修を受講し、本番に向け準備を行いました。CIS 開始後 2 日間は、日本・インドネシアの国紹介、日本企業の説明やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育、CIS 実習テーマの検討などを行いました。

11 月 24 日からの 3 日間は、インドネシア・セランにあるチレゴン・ファブrikレーターズ (PTCF) 社とオンラインでつなぎ企業実習を実施しました。PTCF は、IHI の子会社であり、「発電用ボイラ等の製造メーカー」です。実習プログラムは、会社説明(業務内容等)や、PTCF の幹部やリーダー及びスタッフへのインタビューで構成されました。学生は実習テーマ「PTCF における労働意欲の課題と対策」に関してイン

タビューで得た情報をもとに、連日協議を重ね、最終報告会での提案に向け取り組みました。

最終日の 11 月 29 日には、最終報告会を開催し、テーマの検討結果について発表しました。最終報告会には、インドネシア大学より国際関係担当の Ms. Alfrida、Ms. Amanda、PT.CF の吉田社長、斎藤シニアマネージャー、Thomas 取締役他、大阪大学の菅特任教授、勝又特任准教授ら計 18 名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。吉田社長からは、「具体的な提案も多く、PTCF でどのように取り入れられるかフォローしたい」とのコメントを頂戴しました。

CIS を通し、学生は日本とインドネシアにおける労働意欲の認識の違い、あるいは同じ点を始め、労働意欲を向上するためにできることを一般的な視点とチームでの協議に基づいた創造的アイデアを組み合わせながら提案しました。

現場の空気感を直接感じる事が難しい中でも、インタビューを通して社員のプロフェッショナルリティと互いの信頼を十分に感じる事ができ、貴重な経験と学びの多い活動となりました。ご協力いただいた PTCF の皆様にはこの場をお借りし、改めて御礼申し上げます。

